

毎年、12月を「人権月間」と言い、12月4日から12月10日までを「人権週間」と呼んでいます。なぜそのようになっているかという点と第二次世界大戦後の、昭和23年(1948年)12月10日、第3回国連総会において「世界人権宣言」が採択されて以来、世界各国で毎年この日を「世界人権デー」として様々な人権啓発活動が展開されています。

北野中学校でも、日ごろから「人権問題」について関心を持ってもらおうと、教科の授業や道徳の授業などを通じて取り組んでいます。今一度、皆さんに「人権問題」を考えていく上で、大切にしてほしいことを話しておきたいと思います。

「どの人も同じ重さ」だっていうこと。

同じ重さというと「体重？」と思っている人はいませんか。先生が言いたいのは、「どの人の命も同じ重さ、同じ重さの人権=人として幸せに生きる権利、を持っている」ということです。「重さ」を「大切、尊重される」と置き換えてもいいですね。

無口な人、よくしゃべる人、行動的で活発な人、おとなしい人、勉強が得意な人、苦手な人、スポーツが好きな人、絵画や音楽が好きな人など、色々な人がいますね。でも、一人の人間として、どの人も命の大切さは同じなのです。人間として誰もが幸福に生きていきたいという権利はみんなが持てるし、持っている=保障されている、ということです。

しかし、皆さんの中に本当に人を大切にしているか、自分の命や人の命を軽く見ていることにつながる行動や行為はありませんか？まじめに一生懸命生きていこう、頑張って学習していこうという人が守られていますか、安心して気持ちよく生活できているでしょうか。君たちの日常生活を見渡してみると、必ずしもそうではない状況が見られたり、聞いたりもします。

私たちは、幸せに生きようと、幸せになろうと頑張っている人の邪魔をしたり、嫌な思い、悲しい思い、辛い目にあわせることをしてはいけません。「人権学習」の目的の一つに、「人権問題の解決に向けて行動化していきましょう」、とか「生活に生かされた人権意識・人権感覚を育もう」などといわれますが、私たちが「人権問題」について学習した結果を生活に生かしていく、実践していくということは、今言った、身近な問題の中から考えていくことがまずは大切であると考えます。どうか、私たちにとって、もっとも大切な「人権」について学んだことを、これからの自分の生き方に生かしていくとともに、身近な人々や周りの人々のために生かしてほしいと思います。

校長 恒川 圭一